

CONTENTS

■ 木育先進地視察研修	1
■ 木育先進地視察研修	2
■ 木育マイスター研修	3
■ 宮城県立宮崎工業高校 生徒向け林業・木材産業見学ツアー みやぎき木づかい感謝状贈呈	4

木育先進地視察研修

先進地視察案内及び保育者研修指導：松井 勅尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）

参加者：四季の森こども園 保育教諭 徳尾先生、藤澤先生

日時：令和4年9月2日（金）10:00～11:30, 13:00～14:30

場所：下牧こども園（岐阜県美濃市） 対応：園長 山田先生、副園長 野村先生、年長児担任 坂口先生

場所：美濃保育園（岐阜県美濃市） 対応：園長 雲山先生、副園長 雲山先生、4歳時担任 大野先生、古田先生

県では、地域に根ざした木育活動を目指し、宮崎の文化や森林・木材資源をベースとした教材及び木育プログラムの開発や木育活動に関わる保育者及び地域サポーターの育成に取り組んでいます。今回、木育先進地である岐阜県へ、みやぎき木育プログラム推進モデル園の一つである四季の森こども園の保育者と視察研修を行いました。それぞれの園での「木育」の取り組みをご紹介します。

下牧こども園

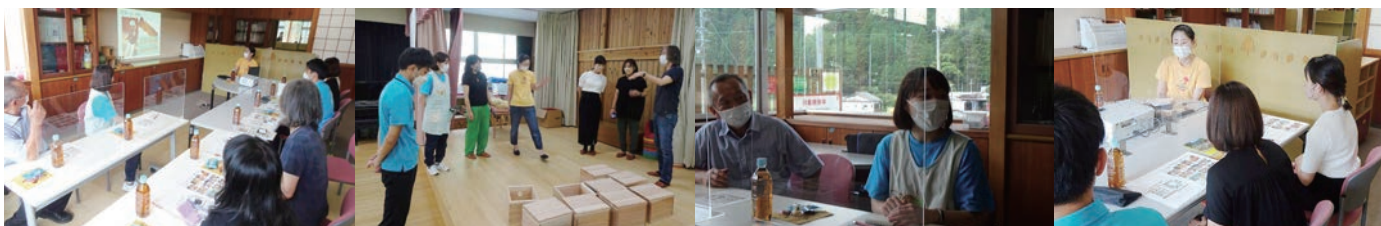
園の取り組み

当園は、松井先生監修のもと、平成22年からスギの箱椅子作りに取り組んでいます。園の年間スケジュールは、行事と並行して「木育」が設けられ、計画的な木育の取り組みを実践しています。木育が目的ではなく、子どもの成長を促す手段として取り入れられ、結果として、木育の効果（モノを大事にする心や木の良さを伝える）があると捉えられています。親、子ども、地域のボランティア（高齢者）、先生が参加し、おしゃべりしながら作ることで、コミュニケーションが図られ、親同士の仲間作りなどにも繋がっているそうです。箱椅子作りなど、作って終わりではなく、作る過程で学んだことを活かし、次に何を作るかを決めており、箱椅子以外にも、マイ箸、マイスプーン作りも行っています。マイ箸は、子どもが先端を噛んで欠けることが多いそうですが、その部分を削ってメンテナンスを行っており、木はメンテナンスを行うことで長く使えることや、モノを大事にする心を養っているとのことでした。

園では、作る材料と森林の繋がりを知ってもらうために、バスで森林へ行き、森林で散策活動を行い、スギやヒノキの葉っぱの違いを見比べたり、匂いを嗅いだりして、木育活動を広げています。

意見交換会

園の取り組みを紹介してもらった後は意見交換会が行われました。四季の森こども園の保育教諭から、「木育を実践する時に不安はなかったですか？」との問いには、『他の先生から聞いて知ることが多く、面白いと思うことが多く、驚いたことを子どもたちにも伝えられたら良いと思っています。作業は、確認しながら間違えないように進めています。』との応えがありました。その他、四季の森こども園で苦戦している、木や、作っている途中の教材の管理に関しては、当園では、教材は画材室で保管し、製作の時にはサポーターの方の手を借り、対処しているとのことでした。

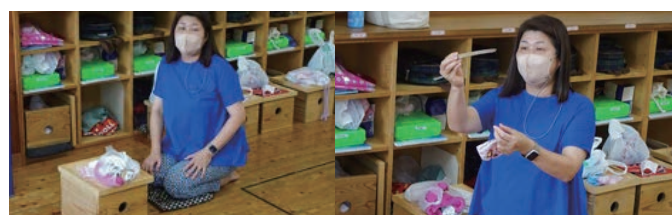


園長 山田先生 年長児担任 坂口先生

副園長 野村先生

園の取り組み

当園は、下牧こども園と同じように箱椅子づくりに取り組んでいます。仏教系の保育園ですので、給食は正座で食べています。そこで、箱椅子をお膳にしたお盆やマイ箸、マイスプーン作りを継続して取り組んでいます。



意見交換会

意見交換会では、四季の森こども園の保育教諭から、今、木育プログラムに取り組んで3年目であり、どの時間に行えば良いのか悩みながら実施していること、うまく出来なかった時は、どのようにしているのか、という質問がありました。それに対し、当園の園長、副園長先生より、「堅苦しく考えず取り組むのが良いのではないか？木工ではないので、困難にぶつかった時に他の先生方と一緒に悩み考えているのが良いと思っている。」との応えがありました。また、松井先生がお話されている「道具は身体の延長」というのを保育者で意識して取り組んでいるそうです。四季の森こども園の保育教諭より、現場を見たことで、ポジティブな気持ちで進められそうだという感想がありました。それに対し、当園の園長、副園長先生より、「木の種類でも個性が違いうように、子どももそうである、そこを楽しんで、体で感じるのが教育なのかな、と思う。」という応えがありました。楽しんで取り組んでいる様子が伺えました。



～振り返り意見交換会～

日時：令和4年9月2日(金) 15:00～16:30
場所：勸修寺 いちよう庵(岐阜県関市)

四季の森こども園保育教諭

今回視察して、負い過ぎないのが良いんだと思いました。失敗してもやってみようと思うことが大事だと感じました。美濃保育園の保育現場は、大勢で遊んでいるところで、普通に木育に取り組んでいて、「これで良いんだ」と感じました。下牧保育園は、ボランティアに対して、来たら来ただけ対応しているという柔軟さが凄いと思いました。どちらの園も、日常の中にありすぎて、それまで、どの時間で、どの人数で行っているのか、というのが気になっていましたが、現場を見て、納得できました。

吉田先生

上手いかなかった時、大人は新しいものに差し替えたり、失敗を無かったことにしてしまいがちですが、子どもたちに失敗を受け入れさせることも大切なことです。



松井先生

両園共に、木育を始めた頃は大変でしたが、今は当たり前の「日常」となり続いていることが嬉しく思います。「道具は身体の延長」を大切にされてきたとのこと…これは最も重要なことで、『木でつくり使うことを通して、心と身体を育てていること』を感じました。



下牧こども園の園だより



美濃保育園の園だより

みやざき木育マイスター研修

指導：松井 勲尚氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日時：令和4年10月12日（水）、11月4日（金）両日とも10:00～16:00
場所：宮崎県立博物館（宮崎市） 受講者：3名



今年度から開催されています、県北・県央・県南の地域で相談役としても活躍してもらう人材の育成「みやざき木育マイスター研修（全8回）」。その第2回、第3回の研修が宮崎県立博物館を会場に行われました。

1 講義1 木育プログラム解説

年中児から対象の、「チョロ船」作りを題材に、企画書の立て方、日程表の組み方、準備の仕方、導入の方法などを、吉田先生より教えていただきました。受講者は実際にチョロ船作りも取り組みました。年長児で初めて取り組む「のこぎり」の使い方、姿勢を学び、実際に切って、切りやすさなどを考えました。



2 講義2 木の適材適所1

樽と桶の違いをもとに、どちらに「柁目」が使われているか、「板目」が使われているか、また、その理由は何かを木の性質を知ることによって学びました。

3 フィールドワーク

博物館の学芸員である永田さんと、ボランティアガイドの姫野さんに、博物館に展示されている民具について説明していただきました。実際に、民具を見ることで、宮崎の文化が照葉樹林から発展していることなど知ることが出来、また、同じ用途のものでも、県北と県南では形や名称が違うことなどを知ることが出来ました。展示されている民具から、それぞれ「イチオシ」のモノを選び、次回の研修時に、プレゼンすることを宿題とし、10月の研修を終えました。

4 イチオシ民具のプレゼン

受講者3名と事務局1名がイチオシの民具について語りました。それぞれに、いろんな背景があり、子どもの頃の体験や、地元の偉人についてなど、それぞれの思いを共有することが出来ました。

5 講義3 木の適材適所2・フィールドワーク

建築材料について、建築での名称や場所などを聞いた後、実際に博物館内にある民家園に行き、ボランティアガイドの鈴木さんに、民家園の特徴などを説明していただきながら見学しました。その後は、受講者で、どこに「木表」「木裏」の板が使われているかや、どんな樹種が使われているか、などを確認しながら見て回りました。教室に戻った後は、いろんな樹種の板材で、どれが針葉樹で、どれが広葉樹かなど、木目を見ながら確認していきました。

6 実習 チョロ船見本仕上げ

前回の研修の際、仕上げまで行っていなかったチョロ船でしたが、子どもたちが「つくりたい！」と思えるような見本となるチョロ船になるよう、先生にチェックしてもらいながら仕上げました。



宮崎県立宮崎工業高校生徒向け 林業・木材産業見学ツアー



松岡林産

伐採現場の作業の説明を受け、高性能機械や伐倒作業の実演を見学しました。また、最近取り入れられたドローン操作の実演も見せていただきました。

宮崎県木材利用技術センター

管理棟の展示コーナーを中心にセンターで取り組んでいる研究などの説明していただきました。

日時：令和4年10月25日(火)8:30～16:30

視察先：(株)松岡林産伐採現場(宮崎市)、宮崎県木材利用技術センター(都城市)

都城木材(株)三股工場(三股町)、ランバー宮崎協同組合(宮崎市)

参加人数：31名(生徒25名、引率3名、事務局3名)

木育活動の一環として、宮崎工業高校インテリア科2年生を対象に、地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場・木材加工企業等の現場見学会を行いました。



都城木材

会社概要の説明を聞いた後、製材工場を見学しました。スギとヒノキの違いを理解してもらうため、2種の葉っぱの形の違いを確認したり、匂いを嗅いだりしました。

ランバー宮崎

会社概要の説明を聞いた後、工場を見学しました。プレカット加工や、構造材について、説明していただきました。

令和4年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈

日時：令和4年10月19日(水)

14:00～16:00

場所：ホテルメリーージュ 3階鳳凰

県産材の「木づかい」に貢献した施設部門2団体(日之影町・五ヶ瀬町)、人材(設計者等)部門1名(ゆうぼく人川添英司氏)、普及啓発(活動等)部門1団体・1名(株式会社松岡林産・宮崎国際大学教授 守川美輪氏)に、河野知事より感謝状が贈呈されました。

日之影町

日之影町役場はカウンターや天井に町有林を含む県産材を使用しており、併設の図書館は吹き抜け構造で意匠性の高い施設となっています。

五ヶ瀬町

五ヶ瀬町役場は外装、内装、議会場などに、地場産材を使った木製ルーバーがあしらわれ、木材がふんだんに使われた庁舎となっています。

川添英司氏

過去3年間に木造化・木質化した物件数は20件にのぼり、韓国の建築士が感銘を受け参考にするなど、多方面から注目されています。



令和4年度 みやざき木づかい県民会議 総会

小迫 幸弘氏

五ヶ瀬町長

松岡 明彦氏

(株)松岡林産

守川 美輪氏

宮崎国際大学

河野 知事

川添 英司氏

ゆうぼく人

佐藤 貢氏

日之影町長

松岡林産

松岡林産は素材生産を行う林業事業体で、小学生以上を対象に林業や木材をテーマに伐採現場を見せ、木材の良さや意義などを広く普及啓発しています。

守川 美輪氏

守川氏は図画工作を専門分野とし、保育園・幼稚園などに出向いて、木育工作を行っているほか、県産材を活用した木製おもちゃなどを製作しながら、木材の良さや創作の楽しさを積極的に発信しています。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ